







5 毎月の概況

2020年 1月 (アルバム p16~19)	調査対象						その他	計
	ほ乳類 	鳥 	は虫類 	両生類 	魚類 	対象の虫 		
	1	58			3	1	3	1

【ほ乳類】

- ・住宅地のタヌキが投稿されました。健康状態に問題があるようにも見えます。

【鳥】

- ・ルリビタキ、ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、カシラダカなど冬鳥が目立ちます。
- ・夏季に山岳高地で繁殖し、冬季に里に下りてくるウソも投稿されています。
- ・オシドリの集団は貴重な記録です。
- ・アカゲラやオオタカは、里山の自然性を評価するうえで重要な種と考えられます。
- ・セグロカモメは本来沿岸部に生息していますが、河川を通じて遡上してきたものと考えられ興味深いです。

【魚類】

- ・アブラハヤは鶴見川上流域を代表する在来魚類です。
- ・タモロコは、本来西日本に生息の本拠があり、アユの稚魚放流とともに東日本にも生息域が広がった魚種で、鶴見川及び多摩川水系などに広く見つかっています。

【対象の野草：タンポポ・ジュウニヒトエ・ノアザミ・ヤマユリ・キツネノカミソリ・ゲンノショウコ・ワレモコウ・カラスウリ・タマノカンアオイ】

- ・1月は植物休眠期のピークです。
- ・カラスウリは枯れ残っている果実の投稿です。
- ・タマノカンアオイは常緑の葉で、この季節も種類の判断ができます。
- ・アイノコセイヨウタンポポは、総苞片が緩く反り返るものとそうでないものが混在していること、角状突起がほとんどないことから雑種と判断しました。



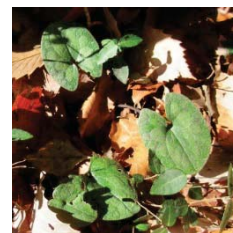
ルリビタキ



アカゲラ



アブラハヤ



タマノカンアオイ

2020年
2月

(アルバム p 20~23)

調査対象							その他	計
ほ乳類	鳥	は虫類	両生類	魚類	対象の虫	対象の野草		
1	40		1	1		1	17	61件

【ほ乳類】

- ・タヌキが河川への排水管出口で撮影されており、こうした場所を巧みに利用していることが垣間見られます。

【鳥】

- ・シジュウカラの雄同士の喧嘩はこの季節によく見られる光景で、見事なシャッターチャンスをつえています。
- ・イカルやビンズイは国内で渡りをする漂鳥であり、毎年の記録が重要、かつカエデの種子を食べるイカルの群れは生態を記録したものとして重要です。
- ・サンショウクイ（亜種リュウキュウサンショウクイ）とヒレンジャクは初投稿で貴重です。ヒレンジャクはヤドリギの果実を食べ、屋敷林などのケヤキやコナラの大木に止まり種子散布をすることで有名です。
- ・アカハラは、顔が黒っぽい特徴から大陸産亜種オオアカハラの雄と思われます。市内に国外からも別亜種のアカハラが渡ってきていることを裏付ける記録で、ツグミ類の中でも唯一、水辺や湿地に接した樹林地を好む生態についてもしっかり捉えられています。

【両生類】

- ・10月に撮影されたウシガエルが投稿されています。2月は冬眠中です。

【魚類】

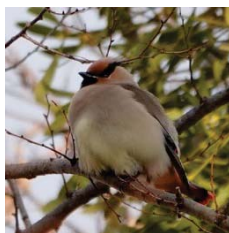
- ・コイは町田の中流河川で群れているのが見られる外来種です。

【その他】

- ・サイハイラン、イチヤクソウ、コウヤボウキも町田市に自生しますが、2月に開花する植物ではなく、過去に撮影されたものの投稿でした。
- ・ハンノキは、水辺に自生、または植栽される樹種で、ちょうど花粉を飛ばしている状態の雄花が記録されています。



シジュウカラ



ヒレンジャク



アカハラ
(亜種オオアカハラ)



ハンノキ

2020年
3月

(アルバム p 23~26)

調査対象							その他	計
ほ乳類	鳥	は虫類	両生類	魚類	対象の虫	対象の野草		
4	12	2	3		1	7	35	64件

【ほ乳類】

- ・フィールドサイン（※）である足跡の投稿がありました。見かける機会が少ないほ乳類の生息確認方法としては非常に有効な手段です。撮影時に足跡のサイズがわかると、より種類の判別の精度が高くなります。

【鳥類】

- ・初投稿のミソサザイは漂鳥で、山から下りて冬を越し、秋から早春にかけて里山で稀に見る機会がある小鳥です。谷戸の細流沿いの茂みなどを素早く移動する小鳥で、カメラにおさめることだけでも一苦労する野鳥です。
- ・早くも夏羽になりかけたカシラダカの写真も貴重です。

【は虫類】

- ・ニホンヤモリは早い記録です。
- ・ヤマカガシの幼蛇は市内に広く生息しているが初めての投稿です。3月末の非常に早い記録です。

【両生類】

- ・アカガエル属の生息は、里山環境が維持されていることの一つの指標となります。町田市内には広範囲にヤマアカガエルが生息しており、さらに一部にニホンアカガエルも生息しているため、どちらの種の卵塊か判別するにはオタマジャクシの模様や成体の写真が必要です。

【対象の野草：タンポポ・ジュウニヒトエ・ノアザミ・ヤマユリ・キツネノカミソリ・ゲンノショウコ・ワレモコウ・カラスウリ・タマノカンアオイ】

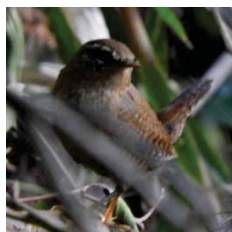
- ・タンポポ類は在来種のカントウタンポポ、外来種と在来種の3倍体雑種であるアイノコセイヨウタンポポの投稿がありました。

【その他】

- ・早春に開花するスミレ類が投稿されています。
- ・ニリンソウやイチリンソウなどの春植物は多摩丘陵の林縁や草地に群生する野草で、適切に保全管理された里山の存在を指標する植物です。



アライグマ 足跡



ミソサザイ



カントウタンポポ



ニリンソウ

※フィールドサイン：屋外で見られる生きものの痕跡のこと

2020年 4月

(アルバム p27~31)

調査対象							その他	計
ほ乳類	鳥	は虫類	両生類	魚類	対象の虫	対象の野草		
1	26				27	16	24	94件

【ほ乳類】

- 住宅街におけるホンドタヌキの投稿が寄せられていますが、疥癬（かいせん）にかかり脱毛した個体であることがわかります。

【鳥】

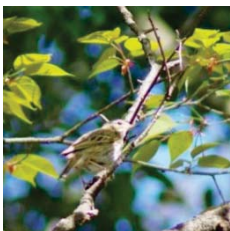
- ウグイスとタヒバリは初めての投稿です。タヒバリは、ユーラシア大陸の中部・北部、北米大陸北部に分布・繁殖しているセキレイの仲間で、日本には冬鳥として渡来し、雪の降らない地方で越冬します。繁殖地へ渡りの途中で撮影されたものと推測されます。
- シジュウカラの投稿はいずれも子育て中の活発な活動中の記録となっています。
- 野鳥の巣の投稿が2件ありました。庭木に巣をつくる種類は多くはないのですが、この場合、モズかヒヨドリの可能性があり、両者はよく似ているので確定できません。

【対象の野草：タンポポ・ジュウニヒトエ・ノアザミ・ヤマユリ・キツネノカミソリ・ゲンノショウコ・ワレモコウ・カラスウリ・タマノカンアオイ】

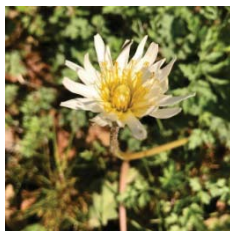
- タンポポ類は多様な種類の投稿があり、さらに、残念ながら判定ができない投稿が2件ありました。
- 今回は、2019年度多くの投稿があった明らかな雑種個体であるアイノコセイヨウタンポポはありませんでしたが、判定できない2件がこれに該当する可能性があります。
- 頭花の中央部が黄色ですが、周辺部がやや白色がかかるタンポポが投稿されています。このタンポポは町田市内でカントウタンポポの生育範囲に以前から散見されるもので、その系統的素性はまだよくわかっておらず、学名も定まっていません。関東地方に広く見られるようで、便宜的にウスジロカントウタンポポと呼ばれていますので、ひとまずこの和名を用いることにします。

【その他】

- アマドコロ、フデリンドウ、ギンラン、ホウチャクソウ、ハンショウヅル、イチリンソウの6種は良好な里山環境に見られる在来植物で、このうちギンランとアマドコロは東京都のレッドデータ種です。
- 園芸植物由来の外来植物でキショウブとオオアマナ、市内に本来自生せず植栽されたと考えられるヤマオダマキ、フッキソウの投稿がありました。
- 甲殻類でサワガニ（赤色型）の投稿がありました。市内鶴見川流域には青色型のサワガニが多いのですが、大戸源流域など境川流域には赤色型個体も生息しています。原町田付近は恩田川と境川にはさまれたエリアで、本来の鶴見川水系とは少し異なる要素を持ったエリアなのかもしれません。



タヒバリ



シロバナタンポポ



ホウチャクソウ



フッキソウ

2020年
5月

(アルバム p 31~39)

調査対象							その他	計
ほ乳類	鳥	は虫類	両生類	魚類	対象の虫	対象の野草		
2	23	8	4	3	69	10	45	164件

【ほ乳類】

- ・ホンドタヌキの投稿は4月に続き疥癬（かいせん）にかかり脱毛した個体です。
- ・ニホンノウサギの投稿はふんを撮影したのですが、明確にニホンノウサギを特定できるフィールドサインとしてよく知られています。

【鳥】

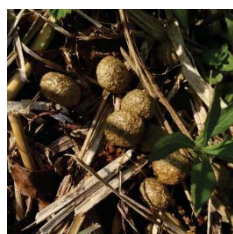
- ・イワツバメ、オオヨシキリは初めての投稿です。どちらも5月の水辺の風物詩といえるでしょう。
- ・イワツバメは河川敷への飛来を捉えたもので、巣材の泥を調達に来たものと思われる。本来、自然護岸での営巣が基本ですが、近年は人口構造物に営巣することが多く、市内のどこに営巣しているかが気になります。
- ・夏鳥のオオヨシキリは、あし原で繁殖する野鳥です。池のヨシにとまり、さえずっている瞬間の投稿です。

【対象の野草：タンポポ・ジュウニヒトエ・ノアザミ・ヤマユリ・キツネノカミソリ・ゲンノショウコ・ワレモコウ・カラスウリ・タマノカンアオイ】

- ・5月に入るとタンポポ類の開花は急速に見られなくなるので、投稿も少なくなりました。

【その他】

- ・キンラン、ギンラン、ササバギンラン、エビネ、タツナミソウ、オカタツナミソウ、ホタルブクロは、良好な春の里山を指標する樹林性～草原性植物といえます。
- ・イモカタバミ、モモイロツメクサ、シラユキゲシ、オオツルボ、キエビネは園芸由来の外来種でした。



ニホンノウサギのフン



イワツバメ



オオヨシキリ



タツナミソウ

2020年
6月

(アルバム p40~47)

調査対象							その他	計
ほ乳類	鳥	は虫類	両生類	魚類	対象の虫	対象の野草		
11	33	6	3	2	55	5	32	147件

【ほ乳類】

- ・アズマモグラの投稿は初記録です。モグラ類は大雨の翌日などに死んだ個体を見ることはありますが、日中、地上で活動していることはきわめて稀で貴重な投稿です。
- ・ニホンイタチは3件の投稿がありました。水辺で生活します。
- ・タヌキの投稿は疥癬にかかった個体のほか、特徴的なためフンによる投稿です。

【鳥】

- ・カルガモの親子や営巣行動を見せるシジュウカラなど、野鳥の子育て季節ならではの投稿があります。
- ・冬鳥であるヒドリガモが6月に居残っている様子は珍しい記録です。
- ・初投稿であるホンセイインコ（亜種ワカケホンセイインコ）は、南アジア・西アジア・アフリカ中部に分布する大型のオウムの1種で、従来、飼育環境から逃げ出したものが武蔵野台地エリアに定着していましたが、近年町田市周辺でも目撃が増えています。

【両生類】 ・ 特定外来生物のアカガエル科ウシガエルが投稿されました。

【魚類】 ・ アブラハヤは町田を代表する淡水魚の一種です。

【対象の虫：チョウ・トンボ・セミ・カメムシ・ホタル・タマムシ・カブトムシ・クワガタ・バッタ】

- ・6月らしくミドリシジミ、アカシジミなどゼフィルスの仲間の投稿がありました。
- ・セセリチョウの仲間など、葉の上で目立ち撮りやすいのか、チョウの投稿が多く寄せられました。

【対象の野草：タンポポ・ジュウニヒトエ・ノアザミ・ヤマユリ・キツネノカミソリ・ゲンノショウコ・ワレモコウ・カラスウリ・タマノカンアオイ】

- ・ヤマユリの開花は7月ですが、つぼみの状態で投稿されたものです。

【その他】

- ・オオキンケイギクは特定外来生物、アメリカオニアザミは生態系被害防止 外来種に指定された外来種です。アメリカオニアザミは植物体全体に鋭いトゲを持ち人や動物にケガをさせる可能性があり、町中から里山まで広い範囲に広がりつつある植物です。
- ・初記録のアズキガイは、従来町田市にはいなかったものですが近年確認されるようになった国内移入種です。
- ・アカヤマドリの投稿がありました。初夏によく見られるキノコで傘の表面の色模様がヤマドリの羽に似ているところが名前の由来です。



アズマモグラ



ニホンイタチ



アブラハヤ



ミドリシジミ



アメリカオニアザミ